

令和4年度

# 芝田小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「個別最適な学び」、「教科等の学びの深化」、「教科等横断的な学び」を実現するための授業の実践  
 ○自ら学び、互いに高め合う授業の実践  
 ○ ICT を適切に活用して学習効果を高める授業の実践

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：藤井正人 教頭：小野寺靖志  
 田原裕介 1年(研修, 教務主任):森北育代 2年:林 裕子  
 3年:高浜ゆき 4年:小路佑実 5年:笠原明恵  
 6年:上田祥平 わかたけ1組:高松裕美  
 わかたけ2組:賀家明希子・金城咲希  
 わかたけ3組:津田真里 養護教諭:増田 遥

## 校長

藤井 正人

### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観, 共通理解・共通実践後のアンケートや校内研修での話し合いにより, 取組状況を把握する。

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○大切なことを落とさず聞く習慣が身につけられており, 各教科において基本的な学習内容は概ね身に付いている。 ●学力の二極化が見られ, 約10%の児童は, 「学校で学習したことが十分理解できていない」と考えている。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け, それを様々な学習場面で活用することができる。 ・辞典や資料, 様々な情報を適切に収集し活用することができる。	・授業の中で, 自力解決の時間を十分に確保し, 個別指導を徹底する。 ・身に付けさせたい知識・技能を明確にするとともに, 学習規律や学習方法を発達段階に応じて計画的に指導する。 ・単元の中で, 身に付けた知識・技能を活用する場面を設定する。			

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小集団での話し合い活動においては, 自分の考えを進んで発言することができる児童が増えてきた。 ●「自分の考えを話したり, 文章に書いたりすることが楽しい」と考える児童が60%にとどまっている。	・語彙を増やし, 学習場面において, 自分の考えを適切な言葉で説明したり, 豊かに表現したりすることができる。 ・協働的な学習に積極的に取り組むことで, 自分の考えを広げたり深めたりできる。	・学習課題を明確にし, 問題解決に向かって個別に学ぶ場面と協働的に学ぶ場面を授業にしっかり位置づける。 ・自分の考えや立場を筋道立てて話したり書いたりすることができるよう, 発達段階に応じた指導計画を立てる。			

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習や朝読書の習慣が定着してきている。 ●「疑問に思うことや分からないことを自分で調べている」と考えている児童が69%にとどまっている。	・目標をもって学習に向かい, 疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。 ・学習過程において, 学びを振り返る時間を持ち, 学習の達成度や自分のよさ, 今後の課題等を自覚することができる。	・学習の進め方(手引き)や情報処理の方法, ICT の活用方法を具体的に示し習得させる。 ・調べ学習や豊かな読書を推進するために, ICT や図書等, 言語環境や学習環境を整備する。			

## 令和4年度 学力向上ロードマップ

